

### 【研究課題の名称】

京都府立医科大学附属病院関連施設における急性冠症候群の実態調査

### 【研究の目的及び意義】

京都府立医科大学附属病院及び関連病院にて緊急冠動脈造影を施行した症例（心肺停止症例を含む）を可能な限り漏れなく登録する。その登録患者の患者背景、治療の実態および治療後の経過を追跡

し、京都府立医科大学附属病院関連施設内で施行された緊急冠動脈造影の実態を把握し、急性冠症候群の院内予後や長期予後、死亡以外のイベント（心血管及び非心血管イベント）の発生状況を明らかにする。

### 3.2 本研究の意義

京都府における急性心筋梗塞の発生率は人口 10 万人あたり 50 人程度とされている。急性心筋梗塞の院内死亡率はインターベンションや治療技術の発展に伴い 20 年前と比し低下傾向にあるが、高齢化を背景にここ数年は改善がなく、7～10%と依然高い院内死亡率を呈している（1,2）。また、急性心筋梗塞を含む急性冠症候群は院外心肺停止の要因になりうる疾患であり、心肺停止を発症した症例の予後は極めて不良である。現状では、急性冠症候群やそれに伴う心肺停止症例の実態を正確に把握できる資料は存在しておらず、急性冠症候群の病態、背景因子、急性期治療の実態、予後、予後規定因子などは明らかではない。また、急性冠症候群で生存退院した後も心機能低下は遷延し、退院後も心血管イベントや心不全入院を繰り返し発症することが多く、患者の ADL や QOL に大きく関わっている。本研究を行い、急性冠症候群に対する現状の治療状況の課題を明らかにすることは、急性冠症候群の院内予後だけでなく、長期的な生存率向上に寄与できると考える。

### 【研究対象者の選定方針】

倫理審査委員会承認後、下記選択基準を満たし、除外基準に抵触しない症例を対象とする。

#### ・ 選択基準

2020 年 1 月以降、以下の 1) かつ 2) を満たす緊急冠動脈造影を行った症例を登録する。

- 1) 急性冠症候群を疑うもしくは除外する必要がある臨床状況がある症例
- 2) 来院から 72 時間以内に早期再灌流治療（Primary PCI）を意図して行う症例

#### ・ 除外基準

研究者等の判断により対象として不相当と判断された患者

### 【研究予定期間】

承認日（西暦2020年11月30日）から永年